

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 11 章 17～26 節>

聖餐式とは何か？ ある出来事を通して見えて来る聖餐式の意味。

1 (23-26) 聖餐式を行う時に必ず読む言葉が出て来る箇所。

今日の箇所の後半 (23-26 節) には、私たちが行う聖餐式の中で読む言葉が出て来ます。これはすでに語り伝えられて来た言い回しをパウロもそのまま語っている箇所だと言われています。すなわち、これは初代のキリスト者たちから今の私たちに至るまで、聖餐式を行う際に読み継がれて来た聖餐式の制定語なのです。通常はこの制定語の部分だけを取り出して読む場合が多いのですが、元のこの箇所ではコリントの教会で起こっていたある出来事の中で語られています。そして、そのことが聖餐式の意味を深く理解させてくれるのです。どういことでしょうか？

2 (17-22) 仲間割れをされていて、聖餐式ができる？

コリントの教会で起こっていたことは「仲間割れ」(18)でした。それは当時の教会でなされていた皆で食事を共にする愛餐に関係し、その愛餐の中で行われていた聖餐式に直接影響を与えることになったのです。つまり、豊かな人たちが自分たちが持って来たもので勝手に食事を始め、貧しい人と分かち合うこともせず、酔っぱらってしまう人まで出ていたのです(21)。こんな状態で聖餐式ができるでしょうか？ パウロは彼らに対して3つの視点から厳しくも的確な批判をしています(22)。そして、聖餐式の制定語を告げたのです。

3 信仰者が繰り返し立ち帰るべき場所に導かれる機会 — 聖餐式！

主の教会内での仲間割れを良しとする理由は一つもありません。なぜなら、私たち人間のそのような醜い罪がイエス様を十字架にかけたこと、しかしそれはまた、神様がその罪を赦して下さるために御子を死に「引き渡される」(23, ローマ 4:25, 8:32) 出来事でもあったことを知らされ、心打たれ、悔い改めた(回心した)者たちの集まりが教会だからです。主は、赦さないでい続ける姿、自分が正しいと主張し続ける姿、そのために仲間割れを起こす姿を悲しまれるのです。「それが終わるために十字架上で私が肉を割き、血を流したのに、どうしてそのような姿でい続けられるのか」と。聖餐式はそのようなことを思い巡らすために(記念する 24, 25: 想起する) 与えられたものなのです。